

病性鑑定材料の採取、送付の注意点について

○病性鑑定材料を送付する前に・・・

呼吸器病や下痢症をはじめとする疾病原因の特定には、発生状況や症状の拡がり方などが重要となります。依頼書には以下の情報を記載し、**新鮮な**検査材料と併せて**冷蔵**で送付してください。

搬入前に頭数等の事前の連絡を頂けると受付がスムーズです。

【検査個体の情報】 個体識別番号（馬の場合は毛色、特徴）、品種、名号、性別、生年月日、初妊又は経産の別、採材年月日、採材した獣医師名 など

【発 生 経 過】 カルテの写し、血液検査データ、ワクチン接種歴、群に拡がっているか など

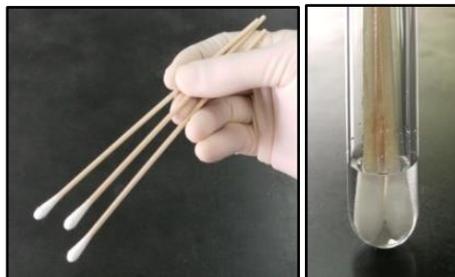
【そ の 他】 証明書の必要の有無、結果の送付先、移動の場合は移動予定日 など

また、検査には症状に応じた検査材料（下痢の検査では糞便、呼吸器病検査では鼻汁）が必要です。以下の表を参考にいただき、採材し忘れないように御注意ください。

【目的別】

	搬入材料	採材道具	採材量	採材方法・注意点
呼吸器病原 因	鼻汁	綿棒	○綿棒は1頭につき3本採材 (ウイルス、細菌、マイコプラズマ用)	○鼻鏡・鼻腔をアルコール綿花で拭き、なるべく鼻の奥から採材 ○採材時期は治療前の発症初期が望ましい ○抗体検査用の後血清は約3週間後に採材
	血清	採血管 (プレーン)		
	全血	採血管 (EDTA)		
下痢原因	糞便	直検手袋	○ピンポン球大(10g程度)以上	○採材時期は治療前の発症初期が望ましい
	血清	採血管 (プレーン)		
	全血	採血管 (EDTA)		

EDTA 血は採血後速やかによく転倒混和し凝固を防ぐ（凝固している場合、採り直しをお願いすることがあります）



	搬入材料	採材道具	採材量	採材方法・注意点
流産原因	胎子 胎盤 母牛血清		○胎子は必ず採材 ○胎盤もなるべく採材	○最終授精日、流産日、 産歴情報を添付
疾病原因 (病理組織 学的検査)	臓器	10~20%ホルマリン 密閉容器	○病変部を3cm×3cm×3cm大 に切り取る(大きい場合、3cm 間隔で割を入れる)	○採材後速やかに十分 量のホルマリンに浸漬 ○搬入時はホルマリン が漏れないよう包装

※集団発生の場合は複数頭採材 ※血液は各3mL以上



【疾病別】

	搬入材料	採材道具	採材量	注意点
牛ウイルス性 下痢	血清 全血 バルク乳	採血管 (プレーン) 採血管 (EDTA) 密閉できる清 潔な容器	○血液は各3mL以上 ○バルク乳は10mL 以上	○6か月齢未満の場合は、血清 と併せてEDTA血も必ず送 付
牛伝染性リン パ腫 (発症疑い)	血清 全血	採血管 (プレーン) 採血管 (EDTA)	○各1mL以上	○採材当日に搬入できない場 合は塗抹標本を送付
牛伝染性リン パ腫 (健康検査)	血清 全血	採血管 (プレーン) 採血管 (EDTA)	○各1mL以上	○抗体検査の場合は血清 (6か月齢未満は移行抗体の 影響があるため、非推奨) ○遺伝子検査の場合は全血
ヨーネ病	血清	採血管 (プレーン)	○1mL以上	○採材時の月齢が6か月以上 であることを、必ず確認
ヨーネ病 (発症疑い)	糞便	直検手袋	○ピンポン球大(10 g程度)以上	



	搬入材料	採材道具	採材量	注意点
サルモネラ	糞便	綿棒	○綿球全体に糞便が付着するよう採材	S. Dublinの検査を行う場合は全血も必要です
				
馬パラチフス	血清	採血管 (プレーン)	○1 mL 以上	

★結果判明には1~2週間程度かかります